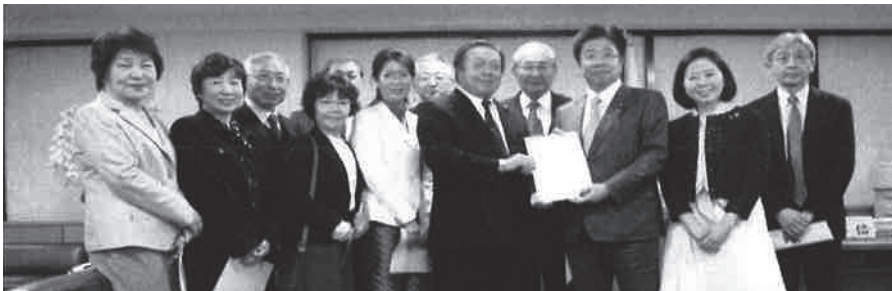


全国協議会 ニュース

2018年1月1日発行 第307号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KTビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

加藤厚生労働大臣に申し入れ 議員連盟 ～骨髄バンクの財政確保、ドナー支援充実～



写真・加藤勝信厚生労働大臣(右から3人目)、浜田靖一議員連盟副会長(右から5人目)

11月29日(水)骨髄・さい帯血バンク議員連盟(野田聖子会長)は、加藤勝信厚生労働大臣と面談し「骨髄バンクの財政の確保、ドナー支援制度などの環境整備」の2項目の決議を提出しました。議連からは、浜田靖一副会長(衆議院議員)、上野通子事務局長(参議院議員)、自見はなこ事務局長(参議院議員)が出席され、説明のうえで申し出をしていただきました。

関係団体として、日本骨髄バンク、日本赤十字社血液事業本部、日本造血細胞移植学会、さい帯血国際患者支援

の会、血液情報広場・つばさ、などの代表も陪席し、当全国協議会は田中重勝理事長が参加し要望しました。

加藤大臣からは「日本骨髄バンクの安定的な財政運営を確保するため、国庫補助金増額や診療報酬改定を検討中である。診療報酬の検討では、コーディネート迅速化と移植コーディネーターの2点についてが評価項目となっている。ドナー支援制度などの環境整備は、少し時間がかかるが検討を進めて行きたい」と大変前向きな回答を述べられました。

新年のご挨拶



全国骨髄バンク
推進連絡協議会
会長

仲田 順和

(真言宗総本山・
醍醐寺座主)

新年あけましておめでとうございます。私たちの住む日本は、美しい四季に恵まれています。これまで幾度もの自然災害や戦乱の苦難に立ち向かい、助け合って乗り越えてきた歴史があります。今年が災害のない、何よりも平和でありますよう祈念しております。

さて、骨髄バンク・さい帯血バンク事業は、みなさまのご活躍により着実

な発展を遂げていることに感謝を申し上げます。患者さんのQOL向上と長期フォローアップ対策、AYA世代のがん対策、妊孕性温存対策、慢性GVHD患者さんへの障害年金適用などの医療体制と公的支援対策が拡充されつつあり、医療関係者と行政関係者の努力に勇気づけられています。

昨年、法律施行から3年が経過し、厚生労働省と骨髄・さい帯血バンク議員連盟それぞれが、法律と対策の見直しの検討を開始してくださいました。これから大きな前進があるものと期待しております。

今年は、コーディネート期間短縮化、患者負担軽減等に全力をあげて取り組んでいきましょう。私も全国のみなさまとともに頑張っております。

新年のご挨拶



骨髄・さい帯血
バンク議員連盟
会長
衆議院議員

野田 聖子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。超党派の骨髄・さい帯血バンク議員連盟は、昨年3月に多くの新たなメンバーを迎え、新体制として再スタートを切りました。

その後、厚生労働省や骨髄バンクより、「骨髄移植に関する費用構造」に関する経緯と現状のヒアリングを重ね、11月末に加藤厚生労働大臣へ「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供のための日本骨髄バンクの安定的な財政運営に関する決議」の申し入れを行いました。

今年は、若年層のドナー登録の拡大、コーディネート期間の短縮化、患者負担の軽減対策などの実現に向けて引き続き取り組んでまいります。

最後に、全国各地でボランティア活動をされている皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《MONTHLY JMDP(12月15日発行)より抜粋》

■日本骨髄バンクの現状(2017年11月末現在)

| | 10月 | 11月 | 現在数 | 累計数 |
|---------|-------|-------|---------|---------|
| ドナー登録者数 | 3,714 | 3,452 | 481,699 | 720,366 |
| 患者登録者数 | 224 | 236 | 3,757 | 52,501 |
| 移植例数 | 105 | 96 | — | 21,403 |

■11月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/1,057人、献血併行型集団登録会/2,266人、集団登録会/67人、その他/62人

■11月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,200人/20代 71,823人/30代 138,682人/40代 206,285人/50代 60,709人

■11月の20歳未満の登録者409人

■11月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：409件

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

新年のご挨拶



厚生労働省健康局
難病対策課
移植医療対策推進
室長

井内 努

謹んで新年のお祝いを申し上げます。平成3年に骨髄バンク事業が開始されて以来、公益財団法人日本骨髄バンクを介した骨髄や末梢血幹細胞の移植は、累計で2万1千件を超えております。

このように本事業が発展致しましたのは、骨髄バンク事業を支えて頂いている全国のボランティアの皆様方や関係者の方々の御理解、御支援の賜物であり、この場をお借りしまして深く感謝を申し上げます。

現在、コーディネート迅速化、若年層向けドナー登録拡大策、日本骨髄バンクの財政改革の支援等に取り組んでいます。本年においても、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の施行後の状況等について、現状の課題を整理し、必要な措置を講じられるべく取り組む一年にしたいと考えております。

厚生労働省と致しましては、移植を希望する患者の方々にとって、病気の種類や病状に応じた造血幹細胞移植が行われ、その生活の質の改善が図られるよう、今後も、関係者の皆様の御意見も伺いながら、造血幹細胞の適切な提供の推進に取り組んでまいります。

結びに、造血幹細胞移植対策事業の推進に当たり、貴協議会の益々の御支援、御協力を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、会員皆様方の御健勝、御活躍を心より祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。



公益財団法人
日本骨髄バンク
理事長

齋藤 英彦

新年あけましておめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。

日本骨髄バンクのドナー登録者は現在48万人、累計移植件数は2万1000例を超えております。これもひとえにドナーの皆様、ボランティアの皆様、全国の病院や関係機関のご尽力の賜物でございます。深く感謝申し上げます。

全国骨髄バンク推進連絡協議会様におかれましては、白血病フリーダイヤルや患者さんへの経済的支援、地域で開催される各種イベントへの協力など多岐にわたる事業を担われてきました。長年にわたり骨髄バンク事業を支援していただき、厚く御礼申し上げます。

一人でも多くの患者さんが移植を受けられるように、2018年も引き続きコーディネート期間の短縮を目指します。また若年ドナーの登録拡大につながるべく、SNSによる普及広報活動などにも重点的に取り組みます。関係各位のご支援ご協力をお願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様様の今年のご活躍とご発展を祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。



日本赤十字社
血液事業本部長

高橋 孝喜

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日本赤十字社は、「苦しんでいる人を救いたい」という使命のもと、造血幹細胞提供支援機関として、移植を必要とする患者さんにより良い移植の機会が確保されるよう様々な取り組みを行っております。

骨髄バンク事業では、ドナー登録者の方が転居等に伴い住所不明になるケースが増えており、その増加を防止する対策に取り組んでいます。具体的には、骨髄バンクドナー登録者の9割以上が献血会場で登録いただいていることを踏まえ、厚生労働省及び公益財団法人日本骨髄バンクと協議を進め、昨年からは、新規ドナー登録者を対象に献血時の登録情報と照合を可能とする同意の取得を開始いたしました。また、公的臍帯血バンクは、一般の方のみならず医療関係者にも認知度が低いという現状から、関連学会の協力を得て、産科医や助産師等が集う学術集会以て展示を行う等の普及啓発活動を実施しております。

造血幹細胞移植を受ける患者さんは、治療のために大量の輸血を必要とします。献血と骨髄提供、臍帯血提供が連携し多くの命を救えるよう、貴協議会をはじめ関係団体の皆様と一丸となって、事業の充実、発展のために取り組んで参りますので、今後ともご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、貴協議会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



今年もよろしくお願ひいたします



全国骨髄バンク
推進連絡協議会
理事長

田中 重勝

明けましておめでとうございます。理事長に就任して半年、前理事長より引き継ぐ課題に取り組んでまいりました。法施行から3年目の見直しでは、日本骨髄バンクに必要な財源、バンク事業の監視・評価、事業の役割分担、患者救済とQOL向上の4点を国の委員会ですべて具体的に提言するとともに、議員連盟との連携に努めてきました。

こうした中、日本癌治療学会が妊孕性温存に関するガイドラインを発表し、さらに慢性移植片対宿主病（慢性GVHD）が障害年金対象となりました。また、11月には議員連盟から厚生労働大臣へ、日本骨髄バンクの財政運営の安定化について申し出をしていただき、大臣からコーディネート改善も含めた前向きな発言もあり、今後に希望をもってまいりたいと思います。

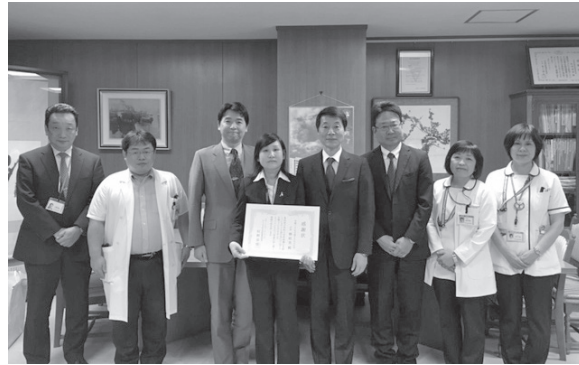
一方、全国協議会の財政状況の改善については、賛助会員制度の推進と経費削減により運動体としてこれまで継続することができましたが、楽観はできない状況に変わりはありません。引き続き全力での努力が必要です。

本年4月からは学校教育では道徳が教科となり、その中に骨髄バンクを取り上げていただいたものもあります。子どもたちの育ちに合わせて、生きる力と命をつなぐ啓発活動が出来ることを願っています。

全国協議会への加盟、非加盟を問わず、全国の多くの骨髄ボランティアは、白血病患者さんを救って行きたいという同じ志を持っていることから、活動軸の一つにして進めることが出来たらと願っています。誰もが活動をしていてよかった、支援してよかったと思えるような、患者さんやドナーさんに寄り添う活動を進めてまいりたいと思いますので、皆様のご支援をよろしくお願ひいたします。

各地のたより
各地のたよりを写真を添えてお寄せください。
山口
幸せの黄色いレシートでプレゼント

11月22日（水）骨髄バンクを支援する山口の会は、山口大学医学部附属



病院小児科の入院患者さんへ「イオン・幸せの黄色いレシートキャンペーン」で交換したノート、スケッチブック、色鉛筆などの文房具をプレゼントしました。お礼として杉野法広病院長より感謝状をいただきました。

贈呈式の後、スタッフの方が早速病棟へ配りに行かれました。ちよっぴり早いクリスマスプレゼントになったで

しょうか？入院中のお子様にとって、笑顔で過ごせるきっかけになれば嬉しいです。今後もこの活動を続けていけたらと思います。

骨髄バンクを支援する
山口の会

会長 猶 絵美

香川
推進月間に
パネル展を開催

骨髄バンク推進月間の10月、香川県宇多津町「うたづ臨海公園」の2か所の施設で、骨髄バンク普及のためのパネル展を開催しました。

10月1日から11月15日まではくうみホテル>での展示でした。うみホテルは、臨海公園の中のパブリック施設で県外からも多くの方が訪れる会場です。

10月13日から22日までは <ユープラザうたづ>でホール展示しました。ユープラザうたづは、図書館とコンサートホールを併設した複合施設で、多くの来場者がパネル展示に関心を示してくれました。

会期中には地元のCATV（香川テレビ放送網KBN）の取材を受けました。骨髄バンクについて、患者として、



患者家族として、そしてドナーとして短い時間でしたがそれぞれのポジションから、骨髄移植を通じて感じた事や今の気持ちについてメディアを通して知ってもらいました。一番大切な事、それはまず知ってもらう事です。

かがわ・骨髄バンクを応援する会は、ドナー経験者、患者、患者家族が中心となり、骨髄バンクの広報、患者支援、提供ドナーお礼、そして献血併行型のドナー登録会での活動を行って

おり、県内のドナー登録者数は着実に増加しております。全ての患者さんに明るい未来が切り開けますよう願っています。平成30年度からは香川県でのドナー助成制度も決まりました。日本で一番狭い県ではありますが、全国へ力強く発信して行きたいと思ひます。

かがわ・骨髄バンクを応援する会
片島恭子・後藤千英



青森

ドナー登録推進活動 頑張っています



横浜町役場での登録説明(12月15日)

私どもの活動は献血併行型ドナー登録を主に行っております。青森県赤十字血液センターから予定表をメールで頂き、説明員にメールで参加希望を募ります。2～3日後に日赤さんと説明員に参加会場をメールにて配信します。参加会場での献血者数とドナー登録数はその日のうちに日赤、説明員の方に配信しています。

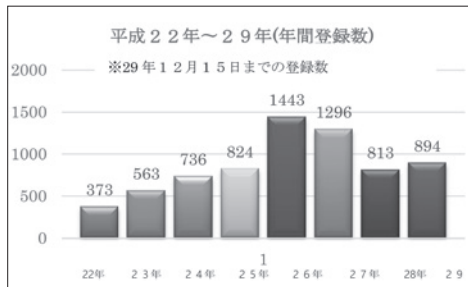
当団体ができる前は全国最下位のドナー登録数でした。平成18年度から当会が活動をして平成26年度(献血併行)は1,443名のドナー登録数を達成する事が出来ました。

このような活動が出来るのは青森県赤十字血液センターのご協力のおかげです。献血により、病気の方々にも輸血ができています。血液疾患の方にも血小板等の輸血をしています。私どもにとっては献血の呼びかけは大事です。ショッピングセンターでの献血の時はプラカードを持って呼びかけ、又、受付された方を献血車に案内もしています。献血なくしてドナー登録はないと思っています。

何度も同じ会場で行っていると、登録済みの方が10名以上おられたりして、結果的に2～3名の登録で終わったりします。ショッピングセンター、市町村役場、企業等での登録も同様です。

今年の7月から青森献血ルームでドナー登録ができるようになりました。今後は弘前献血ルームでも出来るようにしていきたいと考えています。

青森県は短命県で全国最下位となり、県も必死に短命県返上をPRしていますが、骨髄移植を待っている患者を救う為に一人でも多くのドナー登録をして頂き、助かる命を救う事が短命県返上にも繋がっていると自分勝手に解釈しています。年2回、7月と11月に「骨髄移植を知ろう」県民公開講



座を青森県立中央病院血液内科の久保恒明先生の主導のもとに開催しています。今年の7月は青森市駅前のねぶたの家「ワ・ラッセ」、11月は五所川原市「オルテンシア」で開催しました。

平川市で2016年4月からドナー助成制度を設けた事を今年5月に知りました。この事を青森県市町村民に知って頂く為に地元紙の東奥日報社に記事にしてもらい、また、地元テレビ局ATVにも取材に来てもらい放映して頂きました。県内40市町村の担当部署を訪問して同制度を設けてくれるのか聞いて、県の担当課に報告したいと考えています。12月14日現在、23市町村訪問済みです。

これからもドナー登録推進活動に、頑張っていきます。

青森県骨髄バンク登録協力会代表
佐藤孝治

愛知

クリスマス献血 6カ所で実施



12月23日(土・祝)、恒例のクリスマス献血を名古屋市内4ヶ所、岡崎、豊田の計6ヶ所の献血ルームで開催しました。今回は献血の呼びかけだけではなく、ドナー登録推進活動も同時に行いました。献血ルームでのドナー登録推進活動は、2015年から毎週土日のいずれかで登録の呼びかけを行っています。23日は各献血ルームに2～4名、総勢20名のボランティアが参加。

約60名の献血者に説明し38名ものドナー登録者がありました。「以前に説明は聞いています。」「語りべで骨髄バンクの話聞いた。今日は登録に来ました」など日頃の活動の大切さも改めて感じました。献血ルームの職員さんもリーフレットなどを積極的に配布下さいました。ボランティアさんたち

も、今年最後の活動に達成感を感じ、来年に向けて話し合っている様子は頼もしく感じました。

あいちの会 水谷久美

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【サポート賛助会員】

浅野祐子=奈良

心からのご寄付に感謝申し上げます ●11月21日～12月20日(敬称略)

| | | |
|-------------------|------------------|-------------------|
| ●一般 | 匿名 現金 5,000円 | 匿名 現金 2,000円 |
| 骨髄バンクを支援する東京の会 | 日本薬学会学術総会募金箱 | 匿名 現金 50,000円 |
| 現金 30,000円 | 現金 34,100円 | ●このとりのマリーン基金 |
| 江上 義紀 現金 10,000円 | ●白血病患者支援基金 | 点描曼荼羅画作品展・縁 en・ |
| 金沢 朝子 現金 50,000円 | 早瀬 昭一郎 現金 3,000円 | チャリティ賛同者一同 |
| 黒田 多喜男 現金 10,000円 | 匿名 現金 500,000円 | ●募金箱 |
| 塩谷 泰人 現金 1,000円 | ●佐藤さち子患者支援基金 | 株式会社クスリのアオキ |
| 藤波 敬子 現金 10,000円 | コットンキャップの会 八谷 時子 | 現金 557,233円 |
| 増田 愛 現金 2,000円 | 現金 20,000円 | おもと薬局大川店現金 2,145円 |
| 塩谷 泰人 現金 1,000円 | 公益財団法人 | ●かざして募金 |
| 匿名 現金 100,000円 | 大原記念倉敷中央医療機構 | 現金 2,300円 |
| 匿名 現金 1,400円 | 現金 8,761円 | |

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会